



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb 版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

進路を決める(大学で学ぶ)ために高校生ができること

奨学生と面談する中で、進路に関する情報が不足している奨学生が多いという課題がでてきたため、今回の交流会は、「進路を決める(大学で学ぶ)ために高校生ができること」というテーマで、実行委員でもある関西国際大学の山本晃輔さんに奨学生に向けてお話いただきました。対面と、遠方の生徒は ZOOM で参加してもらい、ハイブリッドで行いました。

まずは進路を決めるために一番大切なことはなにか、というお話から始まりました。先生や友達、親に言われて進路を決めた場合には進学先でうまくいかないケースが多く、「自分のことを自分で考える」ということがとても大切だということでした。

そして、具体的に進路決定に向けて、現在それぞれ何ができているのかを 8 つのチェックリストに沿って確認しました。

次に 30 歳になったときに、どんな大人になりたいか、どんな人生を送りたいかということをそれぞれ考えてもらいました。割と具体的に考えられている奨学生もいましたが、あまり具体的ではない奨学生もいました。やりたいことを具体化して、やりたいことのために必要な資格、進学するためにかかる費用など具体的なことを考えて進路を決めることが必要だというお話がありました。

また、就職の面接時に「ガクチカ(学生時代に力を入れたこと)」を必ず聞かれるということや、関心のあることや教授名などからも大学を検索できるサイト「夢ナビ」なども紹介していただきました。

外国ルーツの子どもが将来の夢としてよく挙げるのは、貿易、空港、通訳の仕事とのことでした。私自身もこれまでこの3つの仕事を将来の夢として子どもが答えるのを非常によく聞きましたし、現在もよく聞きます。いかに、見えている職業が少ないのかということを感じます。

今回の話を聞いて、自分でもしっかり調べて、考えて、なりたい自分を目指していってもらえるようになればと思います。(志岐 良子)

奨学生からのメッセージ

G.V.さん(17 期生)

『学校の勉強について』

いよいよ 1 学期が終わる頃になった。短い 3 ヶ月に T 高校でどんな勉強をしてきたかを紹介していきたいです。T は期末テストがない代わりに、定期テストが多い。1 学期では定期考査を 2 回受験します。テストで出題される教科も定期考査によってたまに全部出題されないことがある

第 1 定期考査は、8 教科が出題されたので勉強や部活に集中できやすかった。科学と人間生活と保健体育のテストが第 2 定期考査で出題された。高校生になって勉強や授業内容が難しく感じてきた。特に漢字の書き方を注意されることが多い。そのため、1 学期に誰が見てもわかるようにきれいでわかりやすい漢字の書き方を身につけてみた。言語文化のテストで漢字問題満点取ることができたので効果があったと思う。第一定期考査は学年順位もクラス順位も高かったけど、得意の英語系の教科は 1 位を取ることができなかったの、とてもくやしくなって、次のテストこそ 1 位を取るように頑張る意志を固めた。

第 2 定期考査までに、現代国語という教科では、作文や感想文をたくさん書き、作文の書き方に慣れてきた。次のテストでは、英語コミュニケーションで学年 1 位を取ることができ、達成感をとても感じた。けれども、第 2 定期考査は第 1 定より出題教科が多くて勉強しづらかったこともあって学年順位を 14 位くらい下げてしまった。

勉強以外にも、T 大学のお世話になって、コミュニケーションワークショップを 2 回しました。演技やコミュニケーション能力をつけるような遊びをした。例えば、班を組んで、私の地元の T をアピールするような CM を作った。そのおかげで演技に興味を持つことができた。最近、学校のウェイトルームを使って筋トレをした。初めてウェイトルームを使って筋トレしたので、先輩にいろいろ教えてもらって、先輩たちと仲良くなった。

大変なことは、2、3 年の科目選択だった。総合学科に所属しているので、科目がたくさんあって、進路にぴったりのカリキュラムを自分で作れる。けれども、進路が大学進学をしたい、や英語を生かして仕事したいという抽象的なものしか考えていなかったため、科目選択の時にとても迷いました。これからも大変なことがたくさんあるけど、楽しいことも私を待っている 3 年間になるように頑張っていきたい。

B.A.さん(17 期生)

『入学してから夏休みまでの感想』

僕が高校に入学して驚いたことは高校一年生だけで習う科目が十二科目に増えたことです。例えば、国語では、言語文化と現代の国語などに分かれたり、英語でも ECI や論理表現の二科目に増えたりしたことです。それら十二科目の中で僕は特に数学 I が一番得意です。得意な理由としては、中学校三年生でも理解できるような内容ばかりで分かりやすいからです。高校に入学する前、塾の先生や学校の先生に高校数学の厳しさや、数学という科目だけで数 I、数 A、数 II、数 B、数 III、数 C などと六分野に分かれているということを知り、ついていけるか不安に思いました。しかし、数学の先生が大阪大学の数学科を卒業した先生ということもあり、教え方が普通の先生とは違ってグループワークを重視している先生でした。そのためクラスで先生が教えるという固い空間よりも仲の良い友達と一緒に考え合いながら

勉強することは数学の上達につながると実感しました。

僕にとって高校で一番大変なことは毎朝の小テストです。僕の高校ではテスト期間を除いて毎朝小テストを行います。科目は英語、化学基礎、数学Ⅰ、A の四科目です。これらの小テストをしっかりとこなすことで三年後の僕が受ける共通テストや何カ月にも一回か受ける模試にすぐ役に立つそうです。例えば化学基礎では全てをこなすことによって共通テストでハ割取れたり、英単語ではすべてを覚えることによって国公立大学の二次試験や難関私立大学の対策にもつながり、高校三年生になるころにはかなり有利になれるそうです。それを求めて僕だけでなくクラスの友達も真剣に頑張っています。しかし、大変な時もあります。例えば毎日小テストを行うためたまに中だるみすることです。継続力のない僕にとってかなり致命的ですが、それに打ち勝って頑張ろうと思います。他にも問題の難易度や量なども大変ですが、決して怯まず毎日コツコツと頑張りたいと思います。

もうすぐ夏休みに入るなか、僕の高校は三つの行事を抱えています。一つ目は映画観賞会です。僕の高校では伝統ある行事で毎年行われています。映画鑑賞会では、事前に選んでいた映画を仲の良い友達や先生と一緒に見ます。僕はその中でディアファミリーを見る予定です。二つ目は 1 day ワークショップです。この行事では自分が行ってみたいと思った工場や大学に行き、見学したりします。この行事の利点は公募推薦や総合型選抜のメインピックになったりして、大学受験で役に立ちます。特に僕は大阪大学の基礎工学部の見学に行くことにしました。そこでは、機械を見たり、そこに通われている学生や教授と話をしたりすることができます。僕は将来国公立大学の工学部に進学したいため行ってみたいと思いました。三つ目は高校で行われる夏期講習です。この夏期講習では夏休みの間 7 日間しかありませんが勉強できる良い機会と思いました。

K.K.さん(17 期生)

『そこはかたなく書きつくる』

高校に入学してから 3 ヶ月が経ちました。友達もたくさんでき、だんだん馴染めてきました。私は教職心理類型で入った為、推しキャラプレゼンというものをしました。自分の推しキャラを A5 の用紙 4 枚にまとめて紹介するという内容でした。私は「原神」というゲームを紹介しました。ですが、うまくまとめられていないところがあり、伝わりにくかった部分があったようです。次回はもっとスムーズに内容がわかるように工夫したいです。

推しキャラプレゼンが終わったあとは、保育園実習に向けて講演会がたくさんありました。中には「豚の Pちゃん」と 32 人の小学生」で有名な黒田恭史教授が学校に来てくださり、ブタがいた教室の話をしてくださるというのもありました。なぜ豚なのか？や家畜とペットの違いについてもお話されていたことが印象的でした。中にはブタが食べられなくなった子がいたりとても現実味のある話でした。類型の活動はまだ本格的に始まっていないので、本格的に始まる、夏の保育園実習や神出学園への研修が楽しみです。

しかし、楽しいだけの高校生活ではありません。学生の悩みの上位に入る「テスト」という悪魔の話しましょう。頑張れば絶対に結果がついてくるわけではありません。どれだけ頑張っても、結果が出ないときがあります。伸びない時期にどれだけ土台を固められるかが大切です。それをわかっていても、怖いものです。私も先日まで期末テストを受けていましたが、思うような結果は出ませんでした。

むしろ、中間テストよりも悲惨な結果になりました。

だが、下を見る暇はありません。高校に入ってわかったことがあります。成績のいい人の裏には計り知れない努力が隠れているのだと。「全然勉強してない」と言いながら、5 時間やっている人などざらにいます。その人たちと大学受験は勝負しないといけません。「努力」口で言うのは簡単ですが、やっている方は

苦痛です。大学受験まであと 2 年頑張りきります。

私の趣味についてもちよっと語らせてください。私はアイカツスターズのアニメや曲が大好きです!曲の中で好きなフレーズを一つ紹介します。スタートライン!より「夢は見るものじゃない叶えるものだよ」

なんだか勇気がばあと湧いてくる歌詞です。私も歌詞に恥じぬように、自分の夢を叶えたいと思います。

余談

夏休み中に友達と JK ケーキを作ることになりました。ほんとに楽しみです。ケーキにいちごやお菓子をのせてきらきらさせて私のセンスを爆発させたいと思います。

私の今のせたいお菓子たち「カルパスやコンソメポテチ」は拒否されちゃいましたが、こっそりのせてもいいかなーって思ったり思わなかったりしています。私はどちらかというつまみ食い代表なのでのせるお菓子たち全部食べてしまわないように気をつけたいです。

R.I.さん(17 期生)

『学校の勉強について』

私は、学校の勉強について話そうと思っています。私は、中学校の時、勉強がとても苦手でした。勉強をあまりしなかったです。やる気が出ないことが多かったからです。高校生になってから自分の勉強面を向上させることが一番の目標でした。特に数学が苦手でした。高校に入ってからすぐの時期は、中学校の復習が多かったです。私の数学の先生は、中学生の時、そして高校生の時、数学が苦手だったので、教え方がとても分かりやすく楽しいです。高校の数学が始まってから、分からなかったことを全て分かりやすく教えてくれました。おかげで数 A の小テストはほぼ全て満点をとることができました。テストに向けて勉強する時は、同じクラスの仲良い友達と一緒に勉強し、十分に理解してなかったことを教えてもらいました。テストの結果は、良くはなかったけれど中学校の数学よりは上がっていたのでうれしかったです。このような小さな成長を少しずつ重ねて、勉強ができるようになってきました。

英語のようなできる教科は、中学生の時よりもっと人に教えることができるようになりました。いつも 100 点をとることができず、日本語になおす文や同じ意味でちがう単語を書いていたったりして、90 点後半をとることが多かったです。今も同じですが、より日本語に訳せたり、日本語で英語の文のつくりを説明したりすることができるようになってきました。自分の日本語力が上がったことありますが、英語が苦手な友達に積極的に教えたりする場面が増えてきました。英語の受領では、その日に学ぶ部分を自分はほかの人より早く学習することができるので、授業中の余った時間で周りの人に教えることもできます。他の人に教えることで自分の勉強にもなるので、高校のはじめで決めた、勉強面を向上させる目標が少しずつ達成できていると思います。

中学校より高校の方が勉強のレベルは上がっていますが、勉強ができるようになったので中学生の頃よりもなれてきて、積極的に復習をしたりすることができるようになってきたので、一学期は、目標は達成できていると思います。二学期もこのように自分のペースで頑張りたいと思います。

K.S.さん(16 期生)

『部活で頑張ったこと』

新しいチームでの活動はとても刺激的であり、多くのことを学びました。最初はチームメンバー同士のコミュニケーションがうまくいかず、とまどうこともありました。しかし、互いに支え合い、はげまし合うことで徐々にチームワークが築かれていきました。練習では、日々の努力が大切だと感じました。繰り返しの練

習や厳しいトレーニングを通じて、自分の技術や体力が向上していく様子を実感できました。特に、サーブカットやレシーブの練習に力を入れ、徐々に成果が出ることが嬉しかったです。自分のサーブはギリギリ入るのですが、ギリギリ入った後の 2 回目のサーブを、この夏休みにもっと練習して入るように頑張ります。まだ試合をやっていないですが練習試合では、チーム全体での連携が重要だと痛感しました。相手チームとの熱い試合の中で、チームメンバー同士が一丸となってプレーすることで、勝利を掴むことができました。その喜びと達成感は言葉では表せないほどでした。新しいチームでの活動を通じて、バレーボールだけでなく、仲間との絆や努力の大切さを学びました。これからもチームと共に成長し、さらなる高みを目指して頑張っていきたいと思います。

K.G.さん(16 期生)

『大学に向けて』

私が今、がんばっていることは大学に向けての受験勉強です。私は将来「神戸市外国語大学」の中国語学科に行きたいです。一般入試の対策も必要ですが、私は総合型選抜で神戸市外国語大学を受験したいです。

神戸市外国語大学の総合型選抜は主に、提出する資料検査、そして模擬授業を聞いた後のレポートと面接です。私はこれらに対策するために、資料検査では、かけることを増やすために、色々な検定、例えば英検や中国語検定、また色々な舞台に出たりしています。また、レポートの対策としては、授業中にノートに書いたメモを授業後でも理解できるように書くとか、先生の話をしっかり聞いて理解することを心がけています。またインプットだけでなく、アウトプットもしっかりできるよう、友達の間で理解できなかった授業の内容を互いに説明しあったりします。また、面接の対策では、自分が思っていることをいかに分かりやすく伝えられるかを考えています。

また、総合型選抜の対策でなく、一般入試の対策もしています。自分の苦手な分野をなるべくなくすようにし、もともと少し得意な分野は難しい問題が来ても解けるように勉強しています。特に英語と古文に力を入れています。英語では単語を覚えたり、問題をたくさん解くようにしています。また、古文でも単語が必要ですが、読みなれることが必要なので、短編ではあるが、簡単な古文を読んでいます。そして、形容詞、形容動詞、助詞、助動詞は古文でとても重要な役割を果たしていると思います。だからそれらの活用形と意味や見分け方を覚えてすぐにこれはこうだすることができるようにしています。

古文と英語だけでなくそのほか、神戸市外国語大学を受けるのに必要な科目なども、先生の話をしっかりきいて、問題を解き、過去問で解けそうな問題にチャレンジしています。これらが、最近、私が特にがんばっていることです。

B.J.さん(16 期生)

『学校の勉強について』

私は日本に来たのは 2 年前です。以前、私は学校に行ったときに日本語が分からないので困りました。その時、先生と友だちに、「これは何ですか」「この意味は何ですか」ときいて頑張りました。体育の時もいろいろなやり方がわからないので、友だちのやり方を見て、やったこともあります。今は前よりうまくできるようになりました。日本語はとても難しいですけど、頑張れば何とかできます。最初の頃は、授業の時はなにもわからないので、先生がわかったかどうかきいていることもわかりませんでした。今はわからないところを授業中にきいたりすることを少しでもできるようになりました。

授業の時、楽しかったことは新しいことを学ぶことです。わからないことを面白く教えてもらってわかるようになることは、本当に楽しいです。

大変なことは勉強しても忘れてしまったり、テストの時に良い点を取れなかったりしたことです。

学校で私がきょうみのある授業は、車の勉強です。車のエンジンの勉強は大変ですけどきょうみがあるのでとても楽しいです。でもむずかしくて大変です。

Z.S.さん(16期生)

『一学期を終えて』

2 年生に上がってあっという間に一学期が終わりました。この一学期間は、新しい友達や先生などと人間関係を築く一番大切な学期だと僕は思います。僕が一学期を終えて思ったことが四つあります。

その一つは、人間関係です。学校行事を通し、新たな絆や周りの人達に支えてもらいながら今まで学校生活を送れたと思います。一年生の頃と比べると、学校生活がより将来に向けての自分のためになったと思います。

二つ目は、資格についてです。資格は工業高校でしか取得できないものがあり、僕はこの一学期間多くの資格の勉強を努力しました。まずこの一学期の間で学んだことは、溶接、旋盤、コンピューターCAD実習、製図検定などです。これから取得のできる資格を勉強できたことが良かったと思います。資格や検定などは就職先にも大きな影響を与えるので、今のうちから勉強に必死で努力しています。

三つ目は、情報を受け入れることです。この一学期間は、自分に合った仕事について考えるためにインターネットや雑誌などで情報を調べました。学校でも以前、「神戸製鋼」に工場見学をしました。そこでは、勤務中の人達の姿を見て、とてもすごいと思いました。神戸製鋼の人達は「ご安全に!」という挨拶からお互いが助け合って協力し、やりがいのある仕事をしているそうです。

四つ目は、メモについてです。工場見学やこれからある修学旅行で、多くの人から話があると思います。社会に出ると「メモ」という大切な事が必要です。必要な情報を受け入れメモをとることがこの先自分の将来に向けて得となる一つの事だと僕は思います。

このように一学期の間に多くの知識を得、学ぶことができました。これからも、この調子で2年生と3年生で知識を深め、無事卒業できるように努力し続けます。

M. K. さん(15期生)

『私の長所について』

私には 2 つ大きな長所があると思います。1 つ目は両親の教育方針や生活環境のおかげで手に入れたもので、2 つ目は自分の生まれ持ったものだと思います。

一つ目は私が現在4つの言語を話せることです。過去のニュースレターでも書いたことがあるのですが、私は香港人の父と日本人の母の間に生まれ、5 歳から 10 年間、香港で暮らしていました。両親の教育方針で、私にはなるべく現地の言語を習得して欲しいという思いから、ローカルの学校に入学しました。外では広東語と中国語と英語、そして家では日本語、という環境で 1 番言語を習得できると言われている幼少期を過ごしました。そのおかげで今私は日本語、広東語、英語、中国語の 4 ヶ国語を話すことができます。これは本当に私の強みだと思っていて、数種類の言語がわかることによって、多くの情報を手に入れることができました。例えば世界情勢についてのニュースを日本の視点から見た記事だけではなく、別

の国の視点で書かれた記事も読むことができます。それによって、自分の公平で多角的に物事を考えたりする力を養うことができました。その上1つの出来事について深く知ることもでき、知識も蓄えられていきました。

もう1つの私の長所は、人前で喋ったりするのが好きだということです。卒園のスピーチ、小学校卒業のスピーチで先生に選んでもらうことができ、中学では授業内でのプレゼン、高校でも全校生徒の前でスピーチに全力で取り組み、また去年は英語のスピーチ大会に出場し賞を取ることができました。このように幼稚園の頃からこの性格は変わっておらず、何か人前に立てる機会があれば手に入れたいと思う負けず嫌いなところがあります。でもこれはこれからの社会で必ず役立つ性格だと思っているので、変わらないことを願うばかりです。

これからの将来、この2つの長所を同時にフル活用することができれば、大学進学後や就職した後の世界がさらに広がると思うので、今持っている語学力を保ちながら、さらに表現力が豊かな人間になれるよう頑張りたいと思います。

L.X.さん(15期生)

『環境と共に変わるアイデンティティ』

個人のアイデンティティが重視されるこの時代において、自分と他人の違うところ、そして一人の人間としての自分の面白いところを、私は最近よく考えるようになってい。「課外活動をした。」と主張したとて、高校生で研究することや海外と関わりをもつことが珍しくない日本では、全く特別なことにはならない。悩んだ挙句、「半分日本、半分中国。」この言葉のように、自分のバックグラウンドに落ち着く。6年間の教育を中国で受け、6年間教育を日本で受ける。この経歴のおかげで、私は他の人と違って、特別なアイデンティティになれるのだと気づく。今では、自分のこのバックグラウンドに感謝しかない。しかし、それを気づくのはたくさん悩んだ後の今だ。そんなにはっきりわかっていることなのに、なぜ気づくまでこんなに時間がかかったのだろう。それは、今までは自分のバックグラウンドが誇らしいと思ったことはほとんどなかったからだと考える。

「自分のアイデンティティを誇らしく思う。」思い返せば、私はこのことをなかなかできなかった。日本に来たばかりの中学一年生の時に、私は自分に大きな自信を抱いていた。みんなができない中国語を喋れるので、みんなに日本語を教えてもらう代わりに、私もみんなに中国語を教えることができると考え、毎日元気いっぱい自分らしく学校生活を送った。しかし、気づいたら、自分自身は、周りの人たちと大違い。例えば、周りの子は授業でほとんど発言しないのに、私は中国にいたのと同じように、手を挙げずに発言をしたり、いつも手を挙げたりした。今思い返せば、当時は本当に頭がおかしかった。異国で生活する上での基本、つまり郷に入ったら郷に従うことが頭に入っていなかった。自分の言動で、先生も生徒のみんなも困らせるようなことをたくさんしたと思う。それが原因で、2年生になったら、1年生の時に自分が仲良しだと思っていた友達のところにお喋りに行っても、返事もせず去っていく。いつの間にか、私という変わった子と喋ることが周りに非難される行為になった。私も流石にその状況に気付き、その原因を、「自分はみんなと違うから」に帰結させた。学校の保健室で涙を流しながら何度も何度も、「日本人になりたい」と、叫んだのを今も鮮明に覚えている。しかし、優しい同級生もたくさんいた。その人たちのおかげで、私は自分の殻に閉じこもることなく、一生懸命日本人の行動様式を学び、日本人と同じになることを精一杯頑張った。生徒会執行部にも入ることができ、3年生の時には、学校生活がまた日本に来たばかりの頃と違う意味で楽しかった。

このように、世間一般の人から見たら、この経歴は、一人の中国人が中国にいた自分を殺して日本人と

同じになることで、頑張ったと認められることができた、と言えるでしょう。私自身もそのように思う時期があった。しかし、今はそんなふうに思うことが全くない。そもそもアイデンティティとは、形のないもので、人もまた、環境に合わせて変化するもの。例えば私が日本に来ていなくても、人との付き合いの中でどんどん丸くなり、今の性格になれたかもしれません。もっと言うと、中国の大都市で生まれ育てられたのならば、日本で身につく性格よりも日本らしくなるのかもしれない。国で人のアイデンティティを区切るのはなんて狭い考えなんだろう。人の性格が決まるのは、その人が居た環境。それだけであると私は思う。そしてこのように考えたら、環境をいくつか経験して、環境に合わせてアイデンティティを変化させて、その環境の中の自分らしい最適な性格を作り上げることができる人間は柔軟性が備わっていて、どこでもやっていけると思った。つまり、日本社会や同調圧力のせいで、自分は元々生活していた国のアイデンティティが喪失させられ、無理矢理に日本人のアイデンティティに合わせられたという考え方は間違いだ。アイデンティティは、国や所属が個人に与えるものではなく、環境に合わせて変わってゆくものだ。そしてここでこれから日本に来て生活する方達、もしくは日本に生活してみて、性格に悩んでいる方達に向けて、私の感想を少し述べさせていただく。環境に合わせて自分のアイデンティティを変化させて、いくつかの環境を経験すれば、自分の人間性のパレットはますます色とりどりになる。人間性がより豊かになることを体験できるでしょう。だから、私はこれからどんどん新しい環境の扉を開き、自分をたくさんの環境に自分に溶け込ませたい。

R.K.さん(15 期生)

『かわいいとはなにか』

それは日常のどこでも言われていて、形のない言葉だと私は感じます。

そこで今回は、学校の卒論活動に基づいて「かわいい」とはなにかというのを研究し、かわいいものの条件、共通性を論じていきたいと思います。

まず動機としては、先程も述べたかわいいがどこでも使われていて、何がかawaiiか問われてもハッキリ言えないことに対して、なにかかわいいへの言語化を図りたいと思ったのが動機です。

次に仮説として、私はお世話したくなるものが自分なりの解釈かなと思います。仮説も動機も述べたので実際にかawaiiものへの調査、研究を始めよう!といきたいところですが、いざ調べようにも難しいので、まず私は、かわいいという文化の歴史を調べました。

調べ学習をした結果、一番古く「かわいい」といわれていたのは平安時代の「うつくしきもの」とされます。「かわいい」という意味と近い言葉「うつくしきもの」が、一番古くは平安時代の清少納言、枕草子で使われています。「うつくしきもの」としては、雀の子や、ふたつ三つなるばかりのちごなどのちいさいものが挙げられます。うつくしきものを検索すると、「愛おしい」、「美しい」、「趣のある」と、今の時代のような手軽に「かわいい」というのとは似ていますがニュアンスがかけ離れているので、平安の時代の「うつくしきもの」とかわいいと言う意味では等しいのですがニュアンスは少し違うようです。そのため平安時代のかawaiiはちがうと言えます。そこで次の時代を調べ、いきついたのが大正でした。

大正時代のかawaiiは「ロマンでおしゃれ」「レトロ」とされています。大正時代の「かわいい」を挙げると「竹久夢二」の手紙ものや少女漫画など現代でも見られるようなものがあります。実際令和のファッションでも、大正ロマンやレトロインテリアなど大正時代のものを取り入れています。ですので、現代のかawaiiの形成は、大正とからで、かわいいの概念のスタートは平安なのではと考察します。

続いて昭和から令和の「かわいい」も調べてみました。まず昭和で、テレビが誕生したので今までは柄やキャラクターものがかわいいとされて来ましたが、アイドルや女優によるかわいい、その人が身につけるもの、言動などにも「かわいい」が使われるようになりました。

昭和の 1965 年頃から、テレビが全国民に身近なものになると、テレビ番組で、「かわいい」をテーマに放送され、今までは若い層や一定の人にしか知られてなかったのが日本全土に「かわいい」が伝わりました。

ここで老若男女、誰もが使う「かわいい」へと変わりました。平成 2000 年代、かわいいは多様化し、「ブサイク」な見た目をしているけど「かわいらしい」の「ブサカワ」、「きもい見た目」だけど「かわいらしい」の「キモカワ」などの、「〇〇かわいい」が流行しました。

実際、私も友人と「〇〇かわ」という言葉を使っの会話が増えたと感じています。この流行のきっかけに「かわいい」は多様性が増し、形があやふやとなって、「かわいい」を一言で表すことが難しくなったのではないかと私は考えます。

歴史を調べられたので次に、これらのことからかわいいの条件を出していこうと思います。実際辞書で調べたところ、かわいいは「ちいさいもの」「お世話したくなるもの」「応援したくなるもの」が挙げられます。ちいさいものは大正のキャラクターもの 応援したくなるものは昭和からと繋がっていると推測されます。そこで、これらのことを定義とし、実際アンケートも取ってみました。現代のかわいいといわれている、「キティちゃん」「おぱんちゅうさぎ」「橋本環奈」の 3 つの項目で学校の先生、生徒で年齢、性別問わずアンケートを実施しました。結果としては、キティちゃんはビジュアル的な答えも多かったですが、基本的には(ちいさいため)グッズなど飾れるもののおおい、身につけれるものが多いと ちいさいからかわいいに繋がるとされているようです。

次におぱんちゅうさぎですが、このキャラクターを選抜した理由としておぱんちゅうさぎはドジなうさぎ、どんなことをしても報われないといったキャラクター性で描かれていて、かつキャラクターもののちいささでどちらの方が多いのか調べるために選定しました。結果として、応援したくなるから、が多くドジでどんなことをしても報われないというキャラクター性、後はビジュアル的な部分にもかawaiiさに惹かれるものがあるようです。

最後の橋本環奈については、キャラクター性ではなく性格や言動といった点からアンケートをとってみました。結果としては、アイドルだから応援したいや、顔がきれい目指したくなる、彼女にしてお世話したくなるなどの意見があり、バラバラな意見ではありますが 3 つの条件の中にひとつは当てはまるようになっています。このアンケートを通して歴史から学んだこと、自分が仮説としてあげたものには現代でもあてはまるということが分かりました。

結論、かわいいとはなにかと考えた際、「ちいさいもの」「応援したくなるもの」「お世話したくなるもの」が条件としてあげられると考えられます。ですが平成の中期あたりから「〇〇かわ」というのがあげられるようになり、多様化したためかわいいの形はあやふやとなり、かわいくないと言われてもかわいい、といった抽象的な内容へと変わりました。

この卒論を研究した感想としては、抽象的な内容を具体的な文章へと変換できるようになったのがうれしく、達成感がありました。また、お世話＝母性と考えた際、女性の方が母性本能は強いとされるため男性よりも女性の方がかわいいと感じるのはこれが関係しているのだろうかと疑問にも感じました。卒論の研究はまだまだ続くなと思いました